

百夏寮 地域連携推進会議録

報告日：2026年3月2日（月）

会議名	2025年度3月2日 百夏寮・地域連携推進会議
年月日	2026年3月2日（月）
出席者	構成員①（利用者様）構成員②（保護者様）構成員③（保護者様）構成員④（老人福祉施設地域関係者様）構成員⑤（老人福祉施設地域関係者様）構成員⑥（支援員） 構成員⑦（サービス管理責任者）
議題	1.出席者紹介 2.開会のあいさつと地域連携推進会議の目的 3.百夏寮の説明 4.出席者による情報共有や意見交換 5.閉会の挨拶 6.百夏寮施設見学
内容	1. 出席者紹介 ・一人ずつ順番に紹介を行った。 2. 開会の挨拶と本会議の目的共有 ・事業所と地域との連携による利用者と地域との関係づくり、地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進、サービスの透明性・質の確保、利用者の権利擁護を目的に、事業所が設置する外部の目を入れた会議である旨を説明する。 3.百夏寮の説明 ・対象者：知的に障がいがある方 原則 18～65歳未満 ・地域での生活を望む障がいのある方等 ・定員：男性棟7名、女性棟7名 計14名 個室 ・サービス内容：介護サービス包括型 ・支援内容：食事、入浴、排泄等の介助、洗濯、掃除、調理等の支援、就労先や日中活動の場の連絡調整、余暇活動（実際の活動紹介）、健康管理や金銭面の管理、毎月の土日の活動支援（クッキングやコンビニ外出、ドライブ等）、日帰り旅行や一泊旅行、愛誠祭り等の行事のサポート等。 4. 出席者による情報共有や意見交換 ■老人福祉施設 地域関係者様より ・愛誠会の入所施設やアトリエ・ポルト、ワーク薬師等のことは理解していたが、グループホームの事や福祉サービスの違い等については地域連携推進会議話を聞くまで漠然としていた。 ・グループホームでの暮らしについてもなんとなくイメージがつくが、どのような方が暮らしていてどのように生活しているかは実際わからなかったが、実際話が聞けて良かった。 ・閉鎖的な所や地域に向けての発信や取り組みについては百夏寮と同様に課題がある。

- ・こういった会議を通し、地域の方と交流の場が持てて嬉しい。
- ・防災訓練や祭り等で愛誠会と協力体制が取れている。
一方で近隣の地域の方の協力体制について、解釈の違いや考え方の違いから難しい面があると話される。
- ・老人福祉施設地域関係者様の施設は要介護3以上の施設となる。
そのため、利用者に合わせて外出の支援や地域の交流を図っている。
- ・要介護3以上であれば、知的障がいの方でも入居が可。但し、障害特性がわからない面もあるため少し戸惑いがある。
- ・障害者雇用の受け入れ方については、障害特性や障害への理解が不十分な事もあり、どのように受け入れるか（給与面、仕事内容、仕事のやり方等）が要検討。

■利用者様

- ・休みの日は月に一度、スケジュールを考えて出掛けたり、外食したりする事もある。
- ・百夏寮での生活は楽しい。
- ・日中はアトリエ・ポルトへ行き、ペットフードの袋詰めやパンや焼き菓子の計量・袋詰め等を行なっている。
- ・余暇は新聞の切り抜きをしてノートに貼ったりしている。ノートは月に一度の外出の時に購入している。

■保護者様

- ・百夏寮は65歳未満までの利用になっているが、65歳を過ぎたらどうなるのか。
- ・原則65歳までだが、介護認定を受ければ高齢施設への移行になってくる。
- ・高齢者施設でも要介護認定が出れば知的障がい者も受け入れてくれることがわかり、驚いた。
- ・高齢者施設も含め、地域交流がもっと広がっていければ良い。
- ・百夏寮の方を障害者雇用で近隣の工場等受け入れてもらえれば地域への貢献にもなる。

■百夏寮より

- ・近隣の工場など地域の方との交流は百夏寮としても課題がある所。間接的な関わりとしては、月に一度散歩をしながら飲み物を購入することがあるため、その際に近隣の工場の自動販売機を利用させてもらっていることがある。（工場が休日の時に限る）
可能であれば、散歩の際に地域関係者様の施設に立ち寄る等して交流を図れる場面があれば嬉しい。←了承頂く。
- ・今回、百夏寮のことを知ってもらう機会でもあったが、地域の方からはこういった施設でどのような支援をされているか、勉強させて頂く機会になり大変有意義であった。
- ・利用者のニーズや保護者からの声は普段聞くことができるが、地域社会の交流や近隣住民の協力体制について等情報共有ができた。
- ・今後も施設間で協力体制や連携を大切にしていきながら、地域交流も深めていきたい。

5.閉会の挨拶

6.百夏寮の施設見学を実施。

- ・居室やキッチン、洗面台、トイレ等見学をして頂く。